

『月の行衛』典拠一覧

森 安 雅 子

『月の行衛』二卷三冊（明和八年（一七七二）八月成立）は、伊勢の女流作家荒木田麗女（享保十七年（一七三二）～文化三年（一八〇六））が執筆した歴史物語である。本作品が対象とする時代は、高倉天皇が即位された仁安三年（一一六八）より、壇ノ浦で入水された安德天皇へ諡号が贈られた文治三年（一一八七）までの約二十年間である。

『月の行衛』には、後藤丹治氏が、

一体、この種の歴史的な作品の著述にあたっては、著者はまづその材料を準備することが第一の仕事であると思ひます。……さういふ意味で、月のゆくへといふこの歴史物語は前述の如く執筆から脱稿までには僅かばかりの時日（筆者注―明和八年八月七日起稿、同月十五日脱稿）を費したのでありますが、材料をあつめて筆を執るまでは、恐らくそれ相当な準備を要したのではないかと考えます。(1)

と推察されたように、多くの歴史資料が材料として参照されていると推測される。しかし、『月の行衛』の主要な典拠については、これまでにいくつか報告があるもの(2)、それらは部分的な影響関係の指摘の域にとどまるものであり、作品の全容は必ずしも明らかになつて

いないように見受けられる。

そこで本稿では、従来までの研究成果を踏まえながら、『月の行衛』に利用されたと考えられる資料を改めて調査し、一覧表に整理して提示してみたいと思う。

注

(1) 後藤丹治「慶徳麗女の歴史物語―月のゆくへを中心として―」

『瑞垣』第三号・昭和三十年五月）三六～三七頁。

(2) 尾上八郎『月のゆくへ』解題（『校注日本文学大系』十三、国

民図書・大正十五年）、注1の後藤論文、拙稿『月の行衛』と

『山槐記』（『国語国文』第六八卷第八号・平成十一年八月）、同

『月の行衛』論（『岡山大学院文化科学研究科紀要』第八号・

平成十一年十一月）など。

『月の行衛』典拠一覧

〈凡例〉

・この一覧表は、『月の行衛』二巻三冊の主要記事とその典拠を、作品の配列に従って構成したものである。史実との間に年次のずれが見られても、『月の行衛』の記事の配列順序及びその年次に従った。

・本文中に時間表現がある場合は記事内容の頭にそれを記した。
 ・ 出典資料の中で、◎印は影響関係の特に顕著な記事、○印は引歌・引句等の文飾面での影響、△印は文辞面での直接的な影響関係は認められないが作品との関連が想定されるものを示している。

・『月の行衛』の本文と出典資料との間に年次の相違が見られる場合は（ ）内に別記した。

・その他、『月の行衛』の記事と重なるもので特筆すべきものを備考欄に記した。

元号	西暦	主要記事	出展資料	備考
仁安三	一一六八	三月 高倉天皇即位	今鏡三「二葉松」 百練抄八 帝王編年記二十二 神皇正統記・高倉院 平家物語一「清水炎上」 参考源平盛衰記三「高倉院東宮立御即位事」 △古今著聞集八・孝行恩愛十・三〇九「高倉天皇建春門院に朝観行幸の事」 平家物語「祇園精舎」 殿上の闇討「鱸」「禿童」 「我身の栄花」 参考源平盛衰記一「平家繁昌」得長寿院導師事」 「五節夜闇討」五節始事」 「清盛捕「化鳥」并族官位昇進禿童事」二「清盛息女事」三「高倉院東宮立御即位事」 神皇正統記・高倉院 公卿補任・仁安三年、仁安四年 一代要記・仁安三年十月二十一日 帝王編年記・嘉応元年十月二十一日 ◎帝王編年記・嘉応元年十一月二十二日 新勅撰和歌集七・賀・四 嘗会	

嘉応元	四	一二六九	立春の宮中の有様 正月十三日 閑院へ 還幸 夏の頃 後白河院出家	八五 千載和歌集二十・神祇・ 一二八五(嘉応元年)
卯月 改元				
石清水・賀茂への行幸				
先帝(六条院)の凋落 伊勢齋宮のこと				
秋の頃 賀茂齋院式 子内親王の退下				
親王				
◎千載和歌集十六・雜				
○後拾遺和歌集一・春 上・十四 百練抄・仁安四年正月十 三日 百練抄・嘉応元年六月十 七日 帝王編年記・嘉応元年六 月十七日 平家物語一「殿下乗合」 参考源平盛衰記三「一院 御出家事」 △参考源平盛衰記三「法 皇熊野山那智山御參詣事」 百練抄・仁安四年四月八日 帝王編年記・仁安四年四 月八日 一代要記・仁安四年四月 八日 公卿補任・承安三年・源 資賢(石清水)、承安四 年・藤原俊経(賀茂) (出典不明) 帝王編年記・齋王惇子内 親王 一代要記・齋宮椋子内親王 帝王編年記・齋院式子内 親王				

二				
一一七〇				
睦月十日あまり 再 び延暦寺騒動 二月 延暦寺騒動の 決着				
師走の二十日余 延 暦寺騒動				
俊成と定家の和歌の 贈答 霜月末つ方 宇治別 業歌合				
新古今和歌集七・賀・七 四三 △清嚴茶話(正徹物語下) 初句「年経ぬる」 ◎百練抄・嘉応元年十二 月二十三日、二十四日、 二十五日、二十八日 参考源平盛衰記四「山王 垂跡事」 △参考源平盛衰記七「成 親卿流罪事」				
本朝語園三・五七「俊成 与「定家論」老若」 ◎百練抄・嘉応元年十一 月二十六日 新古今和歌集七・賀・七 四三 △清嚴茶話(正徹物語下) 初句「年経ぬる」 ◎百練抄・嘉応元年十二 月二十三日、二十四日、 二十五日、二十八日 参考源平盛衰記四「山王 垂跡事」 △参考源平盛衰記七「成 親卿流罪事」				
上・九七三 (出典不明) 新古今和歌集十一・恋 一・一〇三四				
定家と式子内親王の 恋物語				
謡曲「定家」 「式子内親 王」 古浄瑠璃 「定家」(新 道成寺) 雑々集下・ 二三「定家 卿式子内親 王へけさう の事」				

卯月 後白河院東大寺へ御幸	◎百練抄・嘉応二年四月二十日 ○新千載和歌集十六・雑上・一六五五 ○大和物語一七二段
去年 後白河院高野御幸	◎百練抄・嘉応元年三月十三日 ◎一代要記・嘉応元年三月十三日 千載和歌集二十・神祇・一二六四
十月 住吉社歌合	住吉社歌合一 古今著聞集五・和歌・一六五「道因法師住吉社にて歌合の事」
十月十六日 法住寺殿歌合	帝王編年記・嘉応二年十月口日 千載和歌集五・秋下・三六二、三六五 建春門院北面歌合七、一〇 (出典不明)
十月二十日あまり 後白河院の法勝寺御幸	△参考源平盛衰記三「資盛乗合狼藉事」(七月三日) 百練抄・嘉応二年十月二十一日
十月 殿下乗台事件	参考源平盛衰記三「殿下乗台事」 △帝王編年記・嘉応二年十月二十日
七月 事件の発端となつた基房と資盛の日	△平家物語一「殿下の乗合」 百練抄・嘉応二年七月三日

承安元	三 一一七一	乗合 冬の頃 基房の太政大臣就任	参考源平盛衰記三「資盛乗合狼藉事」 「小松大臣教訓入道事」 公卿補任・嘉応二年・藤原基房、藤原忠雅 帝王編年記・藤原忠雅、藤原基房 参考源平盛衰記三「殿下乗台事」	今鏡二 「所々の御寺」
	正月三日 高倉天皇の元服		◎一代要記・嘉応三年正月十三日 帝王編年記・嘉応三年正月三日 参考源平盛衰記三「朝観行幸事」 平家物語一「鹿の谷」 参考源平盛衰記三「朝観行幸事」	
	正月十三日 朝観行幸		◎百練抄・嘉応二年九月二十七日 ◎百練抄・嘉応三年正月十九日、二十八日 百練抄・嘉応三年四月二十一日 帝王編年記・嘉応三年四月二十一日	
	去年 大内へ還幸		参考源平盛衰記三「朝観行幸事」	
	正月十九日 太政大臣の大饗			
	夏の頃 改元			
	十二月一日 弓場始めでの頼政の活躍 平徳子入内		◎百練抄・承安元年十二月一日 百練抄・承安元年十二月	

	二 一一七二	二月 高倉女御平徳子の立后 三月 日吉行幸 摂政基房の初瀬参詣 尚齒会	一日 帝王編年記・中宮平徳子
	三 一一七三	五月 伊勢斎宮惇子内親王の薨去 斎宮薨去による廢朝 賀茂斎院、病により退下 水無月のはじめ 伊勢への勅使 基房の関白就任 神無月 祇園稻荷行幸	帝王編年記・中宮平徳子 ○栄花物語六「かゞやく藤壺」 公卿補任・承安二年・藤原実国 ◎百練抄・承安二年三月四日 百練抄・承安二年三月九日 古今著聞集五・和歌・二〇三「前大宮大進清輔和歌の尚齒会を行ふ事」 ◎一代要記・斎宮惇子内親王 ◎百練抄・承安二年五月三日 〈出典不明〉 帝王編年記・頌子内親王 百練抄・承安二年六月五日 公卿補任・承安二年・藤原基房 帝王編年記・藤原基房 一代要記・藤原基房 公卿補任・承安二年・藤原家通
	三 一一七三	卯月 石清水・賀茂行幸 十月 建春門院による	公卿補任・承安三年・藤原成親 ◎帝王編年記・承安三年

今鏡二「所々の御寺」

	四 一一七四	立春の宮中の有様 建春門院と中宮徳子の対面 中宮徳子の後宮での有様 高倉天皇の才 弥生一日 右小弁平親宗家での詩合 四月 勸学院での藤花の宴 四月末 関白第にて学問料の試み 五月 澄憲法師祈雨	最勝光院供養 宗盛叙位 経の島のこと 十月二十一日 公卿補任・承安三年・平宗盛 ◎帝王編年記・承安三年、承安四年十月十五日〜十七日 平家物語六「経の嶋」 △参考源平盛衰記二十六「入道非直人 慈心坊得聞魔請事」 ○金葉和歌集四・冬・三一八
		◎建礼門院右京大夫集二 ○新古今和歌集十八・雑下・一八五一 ◎建礼門院右京大夫集三 △建礼門院右京大夫集 △古今著聞集四・文学・一三〇「高倉院御秀問の事」、一三一「高倉院中殿に於て御作文の事」 ◎百練抄・承安四年三月一日 ◎百練抄・承安四年四月十九日 ◎百練抄・承安四年四月二十八日 百練抄・承安四年五月二十八日 十八日 古今著聞集二・釈教・六 ○「澄憲法印祈雨の事」	

七月二十七日 相撲の節会	七月二十七日 相撲の節会	七月二十七日 相撲の節会	七月二十七日 相撲の節会
文月はじめ 相撲の節会の定め	文月はじめ 相撲の節会の定め	文月はじめ 相撲の節会の定め	文月はじめ 相撲の節会の定め
重盛右大将就任	重盛右大将就任	重盛右大将就任	重盛右大将就任
古事談三「澄憲祈雨効驗事」	古事談三「澄憲祈雨効驗事」	古事談三「澄憲祈雨効驗事」	古事談三「澄憲祈雨効驗事」
玉葉和歌集十五・雜二・二一七八	玉葉和歌集十五・雜二・二一七八	玉葉和歌集十五・雜二・二一七八	玉葉和歌集十五・雜二・二一七八
参考源平盛衰記三「澄憲祈雨事」	参考源平盛衰記三「澄憲祈雨事」	参考源平盛衰記三「澄憲祈雨事」	参考源平盛衰記三「澄憲祈雨事」
百練抄・承安四年七月五日	百練抄・承安四年七月五日	百練抄・承安四年七月五日	百練抄・承安四年七月五日
公卿補任・承安四年・平重盛	公卿補任・承安四年・平重盛	公卿補任・承安四年・平重盛	公卿補任・承安四年・平重盛
参考源平盛衰記三「澄憲祈雨事」	参考源平盛衰記三「澄憲祈雨事」	参考源平盛衰記三「澄憲祈雨事」	参考源平盛衰記三「澄憲祈雨事」
百練抄・承安四年七月二七日	百練抄・承安四年七月二七日	百練抄・承安四年七月二七日	百練抄・承安四年七月二七日
△参考源平盛衰記三「朝観行幸事」	△参考源平盛衰記三「朝観行幸事」	△参考源平盛衰記三「朝観行幸事」	△参考源平盛衰記三「朝観行幸事」
六「内大臣召」兵事」	六「内大臣召」兵事」	六「内大臣召」兵事」	六「内大臣召」兵事」
◎建礼門院右京大夫集十二・十三	◎建礼門院右京大夫集十二・十三	◎建礼門院右京大夫集十二・十三	◎建礼門院右京大夫集十二・十三
◎千載和歌集十・賀・六三〇	◎千載和歌集十・賀・六三〇	◎千載和歌集十・賀・六三〇	◎千載和歌集十・賀・六三〇
新古今和歌集五・秋下・五二四	新古今和歌集五・秋下・五二四	新古今和歌集五・秋下・五二四	新古今和歌集五・秋下・五二四
千載和歌集五・秋下・三六〇	千載和歌集五・秋下・三六〇	千載和歌集五・秋下・三六〇	千載和歌集五・秋下・三六〇

《卷一の下》

承安四 一一七四	西行法師の和歌	◎新勅撰和歌集十七・雜二・一一五三、一一五四	
一一七五	長月 法住寺殿今様合	◎百練抄・承安四年九月一日、十三日	
五	一月四日 朝観行幸	百練抄・承安五年正月四日	

安元元			
と高倉天皇の笛	と高倉天皇の笛	と高倉天皇の笛	と高倉天皇の笛
三月 高倉天皇痲瘡を患う	三月 高倉天皇痲瘡を患う	三月 高倉天皇痲瘡を患う	三月 高倉天皇痲瘡を患う
七月 改元	七月 改元	七月 改元	七月 改元
九月 野分	九月 野分	九月 野分	九月 野分
冬つかた、藤原師長の内大臣就任	冬つかた、藤原師長の内大臣就任	冬つかた、藤原師長の内大臣就任	冬つかた、藤原師長の内大臣就任
重盛が育王山に金三千両を送る	重盛が育王山に金三千両を送る	重盛が育王山に金三千両を送る	重盛が育王山に金三千両を送る
秋の頃 後白河院五十御賀の用意	秋の頃 後白河院五十御賀の用意	秋の頃 後白河院五十御賀の用意	秋の頃 後白河院五十御賀の用意
神無月 御賀の定め	神無月 御賀の定め	神無月 御賀の定め	神無月 御賀の定め
睦月二十日余 法住寺殿にて御賀の舞の御覧	睦月二十日余 法住寺殿にて御賀の舞の御覧	睦月二十日余 法住寺殿にて御賀の舞の御覧	睦月二十日余 法住寺殿にて御賀の舞の御覧
二月二十一日 閑院の内裏にて御賀の試楽（維盛の青海波）	二月二十一日 閑院の内裏にて御賀の試楽（維盛の青海波）	二月二十一日 閑院の内裏にて御賀の試楽（維盛の青海波）	二月二十一日 閑院の内裏にて御賀の試楽（維盛の青海波）
公卿補任・承安五年・藤原実国	公卿補任・承安五年・藤原実国	公卿補任・承安五年・藤原実国	公卿補任・承安五年・藤原実国
百練抄・承安五年三月五日	百練抄・承安五年三月五日	百練抄・承安五年三月五日	百練抄・承安五年三月五日
山槐記・承安五年七月二十八日	山槐記・承安五年七月二十八日	山槐記・承安五年七月二十八日	山槐記・承安五年七月二十八日
◎山槐記・安元元年九月十八日	◎山槐記・安元元年九月十八日	◎山槐記・安元元年九月十八日	◎山槐記・安元元年九月十八日
公卿補任・安元元年・源雅通、藤原師長	公卿補任・安元元年・源雅通、藤原師長	公卿補任・安元元年・源雅通、藤原師長	公卿補任・安元元年・源雅通、藤原師長
帝王編年記・源雅通、藤原師長	帝王編年記・源雅通、藤原師長	帝王編年記・源雅通、藤原師長	帝王編年記・源雅通、藤原師長
平家物語三「金渡」	平家物語三「金渡」	平家物語三「金渡」	平家物語三「金渡」
参考源平盛衰記十一「育王山送」金事」	参考源平盛衰記十一「育王山送」金事」	参考源平盛衰記十一「育王山送」金事」	参考源平盛衰記十一「育王山送」金事」
山槐記・安元元年八月十六日、十七日、九月十三日	山槐記・安元元年八月十六日、十七日、九月十三日	山槐記・安元元年八月十六日、十七日、九月十三日	山槐記・安元元年八月十六日、十七日、九月十三日
百練抄・安元元年十月五日	百練抄・安元元年十月五日	百練抄・安元元年十月五日	百練抄・安元元年十月五日
安元御賀記	安元御賀記	安元御賀記	安元御賀記

三月四日 後白河院 五十御賀一日目	三月五日 御賀二日目	三月六日 御賀の後宴	卯月 後白河法皇御 受戒及び有馬の出湯 へ御幸
三月四日 ◎帝王編年記・安元二年 三月四日 源氏物語「紅葉賀」	三月五日 ◎百練抄・安元二年三月 五日 ◎帝王編年記・安元二年 三月五日	三月六日 ◎百練抄・安元二年三月 六日 ◎帝王編年記・安元二年 三月六日	◎拾遺和歌集十四・恋 四・八五八 ◎詞花和歌集十・雑下・ 三八六 ◎千載和歌集二十・神 祇・一二六七 百練抄・安元二年六月十 三日 帝王編年記・安元二年六 月十二日 一代要記・安元二年・高 松院妹子 百練抄・安元二年六月十 八日、七月八日 帝王編年記・安元二年七 月八日 一代要記・安元二年七月 八日
	安元御賀記	安元御賀記 （維盛の青海 波） 平家公達草 紙（ <i>h</i> ）	高倉院升遐記

七月 六条院崩御	八月 建春門院追悼 のための写経 御法事の頃、人々の 嘆き	九条院崩御	十月 上皇の若宮参 内 十一月 上皇の若宮 参内
◎百練抄・安元二年七月 十七日 皇帝紀抄・六条院 神皇正統記・六条院 △参考源平盛衰記三「高 倉院東宮立御即位事」	◎百練抄・安元二年八月 十一日、二十五日 ◎千載和歌集十九・積 教・二二三八 ◎玉葉和歌集十七・雑 四・二四〇〇 ○和漢朗詠集上・秋興・ 二二三	百練抄・安元二年九月十 九日 帝王編年記・安元二年八 月十九日 百練抄・安元二年十月二 十三日 百練抄・安元二年十一月 三日 △山槐記・安元元年八月 十六日	公卿補任・安元三年・藤 原師長、平重盛 平家物語一「鹿の谷」 参考源平盛衰記三「成親 望」大将「事」重盛宗盛左 右大将「実定」敵島詣「同人 為」大将「事」成親謀反「事」

師長・重盛・実定の 官位昇進 実定の大納言就任に 関する逸話	公卿補任・安元三年・藤 原師長、平重盛、藤原実定 ◎古今著聞集一・神祇・ 二〇「後徳大寺実定春日 社に詣でて昇任祈請の事 並びに厳島に参詣の事」 千載和歌集二十・神祇・ 一一六一 住吉社歌合一一九 △参考源平盛衰記三「重 盛宗盛左右大将 <small>付</small> 実定厳島 詣并同人為 <small>付</small> 大将 <small>事</small> 」 ◎建礼門院右京大夫集五七 重盛昇進に対する右 京大夫の祝歌 重盛内大臣昇進の大饗 卯月の頃 比叡山衆 徒の御輿振り	平家物語一「鶴川合戦」 ◎百練抄・安元三年四月 十三日、十四日 平家物語一「御輿振」「内 裏炎上」 参考源平盛衰記四「山門 御輿振 <small>并</small> 豪運 <small>命</small> 議 <small>并</small> 頼政歌 事」「山王垂跡事」「師高 流罪宣事」 ◎百練抄・安元三年四月 二十八日 ◎帝王編年記・安元三年 四月二十八日 平家物語一「内裏炎上」 参考源平盛衰記四「京中 焼失事」「大極殿焼失事」 〔出典不明〕 ◎百練抄・安元三年四月	四月二十九日 閑院 (源頼政の奇瑞)

還幸 五月 天台座主明雲 流罪となる	五月二十三日 配流 途中の明雲が奪い返 される	平家物語二「一行阿闍梨」 「西光 <small>が</small> 被 <small>し</small> 斬」 参考源平盛衰記五「澄憲 賜 <small>し</small> 血脈 <small>事</small> 」「山門落書事」 百練抄・安元三年六月一 日、二日、三日、九日 帝王編年記・安元三年六 月一日 平家物語二「西光 <small>が</small> 被 <small>し</small> 斬」 「小教訓」「少将 <small>を</small> 請」 参考源平盛衰記五「行綱 中言事」「成親 <small>已</small> 下被 <small>し</small> 召 捕 <small>事</small> 」「小松殿教訓 <small>且</small> 成親 妻子歎事」六「丹波少将 <small>并</small> 謀反人被 <small>し</small> 召捕 <small>事</small> 」「西光 父子亡事」「西光卒塔婆事」 「大納言音立事」七「成親 卿流罪事」「大納言出家事」 平家物語二「教訓」「烽火」 参考源平盛衰記六「入道 院参企事」「小松殿教 <small>訓</small> 父 <small>事</small> 」「内大臣召 <small>し</small> 兵事」	二十九日 百練抄・安元三年五月四 日、五日、十一日、十三 日、十五日、二十日、二 十一日 平家物語二「座主流」 参考源平盛衰記五「座主 流罪事」「山門奏状事」 百練抄・安元三年五月二 十三日 平家物語二「一行阿闍梨」 「西光 <small>が</small> 被 <small>し</small> 斬」 参考源平盛衰記五「澄憲 賜 <small>し</small> 血脈 <small>事</small> 」「山門落書事」 百練抄・安元三年六月一 日、二日、三日、九日 帝王編年記・安元三年六 月一日 平家物語二「西光 <small>が</small> 被 <small>し</small> 斬」 「小教訓」「少将 <small>を</small> 請」 参考源平盛衰記五「行綱 中言事」「成親 <small>已</small> 下被 <small>し</small> 召 捕 <small>事</small> 」「小松殿教訓 <small>且</small> 成親 妻子歎事」六「丹波少将 <small>并</small> 謀反人被 <small>し</small> 召捕 <small>事</small> 」「西光 父子亡事」「西光卒塔婆事」 「大納言音立事」七「成親 卿流罪事」「大納言出家事」 平家物語二「教訓」「烽火」 参考源平盛衰記六「入道 院参企事」「小松殿教 <small>訓</small> 父 <small>事</small> 」「内大臣召 <small>し</small> 兵事」	清盛の後白河院御幸 の企てと重盛の諫め

治承元	丹波の少将・平康 頼・俊寛、鬼界が島 へ流罪	帝王編年記・安元三年六月一日 平家物語二「阿古屋の松」 「新大納言の死去」 参考源平盛衰記七「丹波少将召下付日本国広狭笠島道祖神事」 「俊寛成経等移・鬼界島・事」	帝王編年記・安元三年六月五日 百練抄・安元三年六月二十六日 ◎百練抄・安元三年六月二十六日 ◎百練抄・安元三年七月五日、七日 ○建礼門院右京大夫集八(詞書) 百練抄・安元三年七月十日 △参考源平盛衰記四「殿上御母立願事」 百練抄・安元三年八月四日 帝王編年記・安元三年八月四日 一代要記・安元三年八月四日 ◎百練抄・治承元年八月十日 公卿補任・治承元年・平重盛、藤原実定 平家物語二「徳大寺の厳島詣」 参考源平盛衰記三「重盛	高倉院升遷記
-----	------------------------------	---	---	--------

	二二七八	卯月 春日行幸 霜月十日頃 中宮御産	宗盛、藤原頼定 公卿補任・治承二年・平百練抄・治承二年十一月十二日 帝王編年記・治承二年十一月十二日 山槐記・治承二年十一月十二日 平家物語三「御産の巻」(公卿補) 参考源平盛衰記十「中宮御産事」 ○栄花物語八「はつはな」 ○和漢朗詠集下・祝・七七四 帝王編年記・治承三年
成親の死	中宮御産による大赦	公卿補任・治承二年・平重盛、藤原実定 平家物語二「徳大寺の厳島詣」 参考源平盛衰記三「重盛	宗盛左右大将が実定厳島詣 「同人為大将事」 古今著聞集一・神祇・二 ○「後徳大寺実定春日社に詣でて昇任祈請の事並びに厳島に参詣の事」

	三 一一七九	<p>年の暮 中宮所生皇子の立坊</p> <p>宮中を思いつつ詠んだ右京大夫の和歌 師走の末 源頼政の三位叙位 頼政の大内山の歌</p>	<p>言入道薨去事」</p> <p>百練抄・治承二年十二月十五日</p> <p>帝王編年記・皇太子言仁親王</p> <p>参考源平盛衰記十「三井寺戒壇不_レ許事」</p> <p>建礼門院右京大夫集一二六公卿補任・治承二年・源頼政</p> <p>千載和歌集十六・雑上・九七八</p> <p>頼政集・五七五、五七七、五七八</p> <p>重家集・三一四</p> <p>十訓抄十・三四</p> <p>△平家物語四「鶴」</p> <p>△参考源平盛衰記十六</p> <p>三位入道歌等_并昇殿事」</p>	<p>正月一日の節会</p> <p>正月二日 朝観行幸</p> <p>正月三日 東宮の御戴餅の儀式</p> <p>正月六日 東宮の御五十日の儀式</p> <p>伊勢齋宮、御服により退下</p> <p>賀茂齋院のこと</p> <p>二月 丹波の少将と</p>	<p>山槐記・治承三年正月一日</p> <p>◎山槐記・治承三年正月二日</p> <p>山槐記・治承三年正月三日</p> <p>◎山槐記・治承三年正月六日</p> <p>百練抄・治承三年正月一日</p> <p>帝王編年記・齋王功子内親王</p> <p>親王</p> <p>帝王編年記・範子内親王</p> <p>平家物語三「少将の都還」</p>
--	-----------	--	--	--	---

		<p>平康頼の都帰り</p> <p>康頼の卒塔婆流し</p> <p>陸月 司召</p> <p>二月十日 関白北方の参内</p> <p>二月二十二日 東宮御百日の儀式</p> <p>二月末 大内の花見の行事</p> <p>高倉天皇第一皇子誕生</p> <p>弥生はじめ 院の御所に行幸</p>	<p>参考源平盛衰記十「丹波少将上洛事」</p> <p>「康頼入道著・双林寺・事」</p> <p>千載和歌集八・羈旅・五四二</p> <p>平家物語二「卒塔婆流し」</p> <p>参考源平盛衰記七「康頼造・卒塔婆・事」</p> <p>宝物集三</p> <p>公卿補任・治承三年・藤原兼雅、平時忠、藤原忠親</p> <p>◎山槐記・治承三年二月十日</p> <p>山槐記・治承三年二月二十日</p> <p>◎山槐記・治承三年二月二十八日</p> <p>◎山槐記・治承三年二月二十八日</p> <p>山槐記・治承三年三月五日</p> <p>△古今著聞集十一・蹴鞠・四一三「治承三年三月御方違の行幸に七条殿の御垂にて御鞠の事」</p> <p>山槐記・治承三年三月十五日</p> <p>◎山槐記・治承三年四月十六日</p> <p>山槐記・治承三年四月十七日、十八日</p> <p>◎山槐記・治承三年四月二十三日</p>	<p>三月十五日 平野行幸</p> <p>卯月 仁和寺の若宮の出家</p> <p>高倉天皇皇女誕生</p> <p>賀茂祭で禁制を破り勅勘を受ける</p>
--	--	---	---	--

弥生の頃 文覚勸進帳により流罪	平家物語五「勸進帳」「文覚被し流」		
重盛の病と三熊野詣	参考源平盛衰記十八「文覚高雄勸進付仙洞管弦 [※] 文覚流罪事」		
で	◎山槐記・治承三年三月十一日、五月二十五日		
	平家物語三「医師問答」		
	参考源平盛衰記十一「小松殿夢同熊野詣事」		
弥生 重盛の内大臣	公卿補任・治承三年・平重盛		
辞任	山槐記・治承三年三月十一日		
	◎山槐記・治承三年五月二十五日		
五月二十五日 重盛	◎山槐記・治承三年六月二十一日		
出家	百練抄・治承三年八月一日		
後白河院が重盛を御幸	帝王編年記・治承三年八月一日		
八月朔日 重盛薨去	公卿補任・治承三年・平重盛		
	神皇正統記・高倉院		
	平家物語三「医師問答」		
	参考源平盛衰記十一「大臣所勞事」		
十月ばかり 右京大夫と重盛北の方との贈答	◎建礼門院右京大夫集一〇三、一〇五		
冬の頃 大地震	百練抄・治承三年十一月七日		

五月頃 辻風	帝王編年記・治承三年十一月五日		
	山槐記・治承三年十一月七日		
	平家物語三「法印問答」		
	参考源平盛衰記十一「大地震事」		
	平家物語三「嵐」		
	参考源平盛衰記十一「旋風事」(六月)		
入道が院を恨むといふ噂が流れる	◎百練抄・治承三年十一月十五日		
	山槐記・治承三年十一月十四日		
	平家物語三「法印問答」		
	参考源平盛衰記十一「清盛入洛静憲法師勅使付静憲与入道問答事」		
冬の始め 小除目	公卿補任・治承三年・藤原師家		
	◎山槐記・治承三年十月八日、二十一日、二十五日		
	△参考源平盛衰記十二「高博稻荷社禊替事」		
五節の行事	山槐記・治承三年十月一日、十二日、十三日		
	◎山槐記・治承三年十一月十四日、十五日		
霜月十五日 入道上洛	帝王編年記・治承三年十一月十六日		
十一月十六日 太政大臣以下四十人を免官	山槐記・治承三年十一月十六日、十七日		

	高倉天皇の後宮と皇子皇女達 小督の局のこと	帝王編年記・高倉天皇の皇子皇女の条 平家物語六「小督」 参考源平盛衰記「小督局事」
		謡曲「小督」

《巻二》

四	二月二十一日 安徳天皇即位	百練抄・治承四年二月二十一日 帝王編年記・治承四年二月二十一日 平家物語四「還御」 参考源平盛衰記十二「安徳天皇御即位」 神皇正統記・安徳天皇二十一日 山槐記・治承四年二月二十一日 山槐記・治承四年三月四日 ◎山槐記・治承四年二月二十七日 ◎山槐記・治承四年三月五日 ◎百練抄・治承四年四月二十二日 帝王編年記二十二 一代要記・治承四年四月二十二日 参考源平盛衰記十三「入道信三・敵島」 道信三・敵島「垂跡事」 山槐記・治承四年三月十九日	高倉院 殿幸記
	御讓位の儀式		
	坊官の除目のこと 新院の尊号・御隨身のこと 垂切の御剣のこと		
	四月二十二日 御即位の儀式		
	入道・二位尼へ准后の宣旨 弥生 高倉院の鳥羽殿御幸と敵島御幸		高倉院 殿幸記

	五月 大嘗会の檢校の定め 後白河院の八条坊門（入道家）御幸	百練抄・治承四年三月十九日 神皇正統記・高倉院平家物語四「敵島御幸」 参考源平盛衰記十二「新院敵島鳥羽御幸事」十三 「入道信三・敵島」 ◎源氏物語「須磨」 △参考源平盛衰記二十三「新院敵島御幸」 入道奏勸起請事」 △古今著聞集一・神祇・二二「高倉院敵島に御幸ありて自ら願文を草し給ふ事」	高倉宮（以仁王）の謀反と拳兵
	山槐記・治承四年五月七日 山槐記・治承四年五月十四日 百練抄・治承四年五月十四日 平家物語四「馳の沙汰」 参考源平盛衰記十三「法皇自鳥羽殿還御事」 ◎山槐記・治承四年五月十五日、十六日、十七日、十八日、二十二日、二十六日 百練抄・治承四年五月十五日、二十二日、二十五日、二十六日 神皇正統記・高倉院		

<p>実定と待宵侍従のこと</p> <p>今物語十</p> <p>本朝語園三・四十五「待宵侍従<small>艶藏人</small>」</p> <p>新拾遺和歌集八・離別・七五四</p> <p>新古今和歌集十三・恋三・一一九一</p> <p>○古今和歌六帖五・二七二五</p> <p>○源氏物語「桐壺」の和歌</p> <p>△参考源平盛衰記十七</p> <p>〔実定上洛<small>付</small>待宵侍従<small>並</small>優藏人事〕</p> <p>千載和歌集二十・神祇・一二七九</p> <p>帝王編年記・治承四年八月十七日</p> <p>百鍊抄・治承四年九月三日</p> <p>神皇正統記・高倉院</p> <p>平家物語五「大庭<small>が</small>早馬」</p> <p>参考源平盛衰記十七「大場早馬事」二十「八牧夜討事」二十二「大場早馬立事」「入道申<small>官符</small>事」</p> <p>山槐記・治承四年九月五日、二十二日、二十三日、二十九日</p>	<p>大中臣為定の天下太平を祈る和歌</p> <p>源頼朝の挙兵</p>	<p>参考源平盛衰記二「二代后事」</p> <p>本朝語園八・四二「二代立后」</p> <p>○源氏物語の引歌</p> <p>十訓抄一・一十八</p>	<p>義経記三</p> <p>「頼朝謀反の事」</p>

<p>富士川の戦い</p> <p>霜月はじめ 平維盛の帰京</p> <p>再度頼朝追討の定め</p> <p>座主による朝敵調伏の祈念</p> <p>大嘗会の廃止と新嘗会・五節</p>		<p>平家物語五「富士川」</p> <p>参考源平盛衰記二十三「朝敵追討<small>付</small>駢路鈴事」「忠文祝神<small>追討</small>使門出事」</p> <p>◎山槐記・治承四年十一月六日</p> <p>帝王編年記・治承四年十月六日</p> <p>平家物語五「富士川」</p> <p>参考源平盛衰記二十三「実盛京上<small>付</small>平家逃上事」</p> <p>◎山槐記・治承四年十一月六日</p> <p>帝王編年記・治承四年十一月五日</p> <p>平家物語五「五節の沙汰」</p> <p>参考源平盛衰記二十三「新院自<small>落</small>敵島<small>還御</small>付新院恐御起請<small>并</small>落書事」</p> <p>◎山槐記・治承四年十一月六日</p> <p>参考源平盛衰記二十四「頼朝廻文<small>付</small>近江源氏追討使事」</p> <p>◎山槐記・治承四年十一月六日</p> <p>参考源平盛衰記二十四「山門都返奏状事」</p> <p>◎山槐記・治承四年十一月十七日、十九日</p> <p>百鍊抄・治承四年十一月十七日</p>		

旧都遷幸	平家物語五「五節沙汰」 参考源平盛衰記二十四 「大嘗会儀式」新嘗会事」 ◎山槐記・治承四年十一月二十日、二十二日、二十三日、二十四日、二十六日 百練抄・治承四年十一月二十三日、二十六日 帝王編年記・治承四年十一月二十三日、二十四日、二十六日 神皇正統記・安徳天皇 平家物語五「都遷」 参考源平盛衰記二十四 「都返僉議事」「両院主上還御事」 △古今著問集三・政道忠臣・八六「福原遷都大神宮の神慮に合はざる事」 ◎山槐記・治承四年十一月晦日 平定祈願の定め
前関白基房の帰京	△古今著問集三・政道忠臣・八七「前右兵衛佐頼朝の謀反を群議の事」 ◎山槐記・治承四年十二月二日、四日、六日 ◎百練抄・治承三年十一月二十八日 参考源平盛衰記二十四 「両院主上還御事」
後白河院が新院御所	◎山槐記・治承四年十二月二十八日

五 一一八一	正月朔日の節会	<p>へ御幸 師走 再度東国追討の定め 三井寺炎上 内裏の守護の強化 東大寺炎上</p>	<p>月八日 ◎山槐記・治承四年十二月二日 平家物語五「都遷」 ◎百練抄・治承四年十二月十日、十一日 山槐記・治承四年十二月十日、十一日、十二日 平家物語五「奈良炎上」 参考源平盛衰記二十四 「南都合戦同焼失」胡徳楽河南浦楽事」 山槐記・治承四年十二月十日 百練抄・治承四年十二月十日 ◎山槐記・治承四年十二月二十五日、二十八日 帝王編年記・治承四年十二月二十八日 平家物語五「奈良炎上」 参考源平盛衰記二十四 「南都合戦同焼失」胡徳楽河南浦楽事」</p>
	◎百練抄・治承五年正月一日 平家物語六「新院崩御」 参考源平盛衰記二十五 「鱸奏・吉野国栖」事」		

<p>新院不予による祈祷 陸月十四日 新院崩御</p>	<p>◎山槐記・治承四年十二月二十八日 百練抄・治承五年正月十四日 帝王編年記・治承五年正月十四日 平家物語六「新院崩御」 参考源平盛衰記二十五 〔行〕御齋会#新院崩御#教円入滅事 ○玉葉和歌集十七・雜四・二三七三 △古今著聞集十三・哀傷・四六〇「鳥羽院御葬送の夜西行法師詠歌の事」 玉葉和歌集十七・雜四・二三〇三 ◎百練抄・治承五年正月十七日 △参考源平盛衰記二十六 〔字佐公通脚力伊予国飛脚事〕 百練抄・治承五年閏二月四日 帝王編年記・治承五年閏二月四日 一代要記・治承五年閏二月四日 神皇正統記・安德天皇 平家物語六「入道逝去」 参考源平盛衰記二十六 〔入道得病#薨#新日吉新</p>	<p>◎山槐記・治承四年十二月二十八日 百練抄・治承五年正月十四日 帝王編年記・治承五年正月十四日 平家物語六「新院崩御」 参考源平盛衰記二十五 〔行〕御齋会#新院崩御#教円入滅事 ○玉葉和歌集十七・雜四・二三七三 △古今著聞集十三・哀傷・四六〇「鳥羽院御葬送の夜西行法師詠歌の事」 玉葉和歌集十七・雜四・二三〇三 ◎百練抄・治承五年正月十七日 △参考源平盛衰記二十六 〔字佐公通脚力伊予国飛脚事〕 百練抄・治承五年閏二月四日 帝王編年記・治承五年閏二月四日 一代要記・治承五年閏二月四日 神皇正統記・安德天皇 平家物語六「入道逝去」 参考源平盛衰記二十六 〔入道得病#薨#新日吉新</p>	<p>高倉院升退記 西行物語下</p>

<p>大納言邦綱死去</p>	<p>重衝による東国追討 法皇、法住寺に御幸 中宮徳子、故高倉院を追憶</p>	<p>熊野事 ○新古今和歌集八・哀傷・七五七 ○平家物語一「祇園精舎」 ○参考源平盛衰記一 百練抄・治承五年閏二月二十五日 帝王編年記・治承五年閏二月二十五日 平家物語六「洲勝合戦」 参考源平盛衰記二十六 〔法住寺殿御幸#新日吉新熊野事〕 百練抄・治承五年閏二月十五日、三月十日 帝王編年記・治承五年三月十三日 一代要記・治承五年三月十日 平家物語六「洲勝合戦」 参考源平盛衰記二十六 〔大智懐妊女#賜大織冠事〕 〔平家東国発向#邦綱卿薨去同思慮賢事〕 ○新千載和歌集十九・哀傷・二一八〇 ○古今和歌集十六・哀傷・八三二 ○古今和歌集二・春下・八四 公卿補任・養和元年・藤原邦綱</p>	<p>高倉院升退記</p>

養和元			
文月 改元	東大寺・興福寺再建の宣旨	故高倉院への追憶 故院の御葬りと御諡 平定祈願のための写経	一代要記・治承五年閏二月二十三日 平家物語六「洲勝合戦」 参考源平盛衰記二十六 「平家東国発向付邦綱卿薨去同思慮賢事」 玉葉和歌集十七・雜四・二三〇四 一代要記・治承五年二月二十七日 ◎百練抄・治承五年二月六日 一代要記・治承五年二月七日 平家物語六「飛脚到来」 参考源平盛衰記二十六 「平家東国発向付大臣家尊勝陀羅尼事」 百練抄・治承五年六月十五日、二十六日 一代要記・治承五年六月十五日、二十日、二十六日、七月三日、八日、二十八日、八月十日 平家物語六「洲勝合戦」 参考源平盛衰記二十五 「大仏造営奉行勳進事」 ◎百練抄・治承四年十二月一日 公卿補任・治承五年 百練抄・治承五年七月十四日

秋 飢饉	冬ノ頃 中宮徳子、院号を受けて建礼門院と称す 齋宮・齋院の不在 大嘗会の延期 長月 伊勢へ平定祈願	帝王編年記・治承五年七月十四日 一代要記・治承五年七月十四日 平家物語六「喘涸声」 参考源平盛衰記二十七 「信濃横田川原軍事」 ◎百練抄・養和元年 帝王編年記・養和元年 参考源平盛衰記二十七 「大神宮祭文東国討手帰洛付天下餓死事」 帝王編年記・養和元年十一月二十五日 平家物語六横田河原合戦」 参考源平盛衰記二十七 「実源大元法事事」 帝王編年記・齋王齋院の条 百練抄・養和元年 ◎百練抄・養和元年九月十三日 平家物語六横田河原合戦」 参考源平盛衰記二十七 「奉幣使定隆死去覚算寝死事」 平家物語六「横田河原合戦」 参考源平盛衰記二十七 「奉幣使定隆死去覚算寝死事」	神無月 日吉社へ平定祈願

文月二十一日 再度	追討の失敗 卯月く五月 源義仲	藤原実定の内大臣就任 前太政大臣の妙音堂 供養 ◎百練抄・寿永二年正月九日 公卿補任・寿永二年・平宗盛、藤原実定 帝王編年記・内大臣・平宗盛、藤原実定 一代要記・内大臣・平宗盛、藤原実定 百練抄・寿永二年四月十七日、二十七日、五月十一日 帝王編年記・寿永二年四月十七日 一代要記・寿永二年四月十七日、二十日、二十七日、五月二日、十一日、二十三日、六月一日、十一日、十八日 平家物語七「北国下向」く「実盛最後」 参考源平盛衰記二十八「源氏追討使、燧城源平取陣事」く三十「平氏侍共亡事」	十一日 公卿補任・寿永二年・藤原成範、藤原朝方、藤原光能 平家物語六「横田河原合戦」 参考源平盛衰記二十八「宗盛補大臣」 ^註 「拝賀事」 ◎百練抄・寿永二年正月九日 公卿補任・寿永二年・平宗盛、藤原実定 帝王編年記・内大臣・平宗盛、藤原実定 一代要記・内大臣・平宗盛、藤原実定 百練抄・寿永二年四月十七日、二十七日、五月十一日 帝王編年記・寿永二年四月十七日 一代要記・寿永二年四月十七日、二十日、二十七日、五月二日、十一日、二十三日、六月一日、十一日、十八日 平家物語七「北国下向」く「実盛最後」 参考源平盛衰記二十八「源氏追討使、燧城源平取陣事」く三十「平氏侍共亡事」 ◎帝王編年記・寿永二年

	御幸 後白河院、比叡山に	義仲が比叡山に登山	義仲追討の定め
	七月二十五日 神皇正統記・安德天皇 平家物語七「主上の都落」	◎百練抄・寿永二年七月二十二日 帝王編年記・寿永二年七月二十一日 一代要記・寿永二年七月二十一日 平家物語七「主上の都落」 参考源平盛衰記三十「木曾登山」 ^註 「勢多軍事」	□月二十一日 百練抄・寿永二年七月二十一日 一代要記・寿永二年七月二十一日、二十二日 平家物語七「主上の都落」 参考源平盛衰記三十「平家兵被」向「宇治勢多事」 ◎百練抄・寿永二年七月八日 平家物語七「木曾山門牒状」 「山門返牒」 「平家山門」の連署 参考源平盛衰記三十「平家延暦寺願書事」 「平家兵被」向「宇治勢多事」 「木曾山門牒状事」 「覚明語」 「山門」事 「山門詮議牒状事」

文月二十五日 平家 一門都落ち	参考源平盛衰記三十一 〔鞍馬御幸事〕 ◎百練抄・寿永二年七月二十五日 帝王編年記・寿永二年七月二十五日 一代要記・寿永二年七月二十五日 神皇正統記・安德天皇 平家物語七〔主上の都落〕 参考源平盛衰記三十一 〔鞍馬御幸事〕		
維盛の都落ち	平家物語七〔維盛の都落〕 参考源平盛衰記三十一 〔維盛借妻子遺事〕 △参考源平盛衰記三十一 〔維盛兼言事〕 ○源氏物語〔須磨〕 平家物語七〔経正の都落〕 参考源平盛衰記三十一 〔経正参仁和寺宮事〕 〔青山琵琶流泉啄木事〕 参考源平盛衰記三十二 〔落行人々歌〕忠度自淀帰 謁俊成事		
経正の都落ち			
都を落ちゆく忠度・ 経盛の歌			
行盛と定家	○伊勢物語・一二三段 ◎新勅撰和歌集十七・雑 二・一一九四		
忠度と俊成	千載和歌集一・春上・六六		謡曲「俊成

文月二十八日 後白 河院還御	平家物語七〔忠度・都落〕 参考源平盛衰記三十二 〔落行人々歌〕忠度自淀帰 謁俊成事 百練抄・寿永二年七月二十七日、二十八日 帝王編年記・寿永二年七月二十七日、二十八日 一代要記・寿永二年七月二十七日、二十八日 平家物語八〔山門御幸〕 参考源平盛衰記三十二 〔法皇自天台山還御事〕 平家物語七〔福原落〕 参考源平盛衰記三十二 〔福原管弦講事〕 公卿補任・寿永二年		忠度
平家の福原落ち			
時忠を除く平家一門 の免官	百練抄・寿永二年八月六日 帝王編年記・寿永二年八月六日 一代要記・寿永二年八月六日		
八月 除目			
藤原師家、十二才で	平家物語八〔那都羅〕 参考源平盛衰記三十二 〔義仲行家受領事〕 公卿補任・寿永二年・藤		

大納言就任 藤原実定と良通のこと 故高倉院の四の宮 (後鳥羽)即位	原師家 公卿補任・寿永二年・藤 原実定・藤原良通	◎百練抄・寿永二年七月 三十日、八月十八日、二 十日、九月二日 帝王編年記・寿永二年八 月二十日 神皇正統記・後鳥羽院 平家物語八「山門御幸」 参考源平盛衰記三十二 「四宮即位事」三十三「大 神宮勅使付緒方三郎攻平 家事」	義仲の謀反(法住寺 合戦) ◎一代要記・寿永二年十 一月十九日 百練抄・寿永二年十一月 十九日 帝王編年記・寿永二年十 一月十九日 神皇正統記・後鳥羽院 平家物語八「法住寺殿合 戦」 参考源平盛衰記三十四 「木曾可追討・由木曾愈 状拳山門事」 法住寺城 郭合戦事」 ◎百練抄・寿永二年十月 九日 一代要記・寿永二年十二 月十三日 神皇正統記・後鳥羽院

師家の摂政・内大臣 就任	平家物語八「法住寺合戦」 参考源平盛衰記三十四 「公朝時成関東下向知康 芸能事」 「範経義経上洛」 頼朝山門牒状事」 △参考源平盛衰記二十三 「頼朝鎌倉入観常平家方 人罪尖事」 ◎百練抄・寿永二年十一 月二十一日 帝王編年記・寿永二年十 一月二十一日 平家物語八「法住寺合戦」 参考源平盛衰記三十四 「明雲八条宮人々被討信 西相明雲事」 「法皇御歎 木曾縱逸四十九人止官 職事」 「木曾内裏守護事」	三 一一八四	義仲征夷大將軍となる 百練抄・寿永三年正月十 一日 帝王編年記・寿永三年正 月十日 神皇正統記・後鳥羽院 △帝王編年記・寿永二年 十一月二十一日 考源平盛衰記三十四「京 屋島朝拝無之義仲將軍 宣事」 百練抄・寿永三年正月二 十日 帝王編年記・寿永三年正

	平家の動向	月二十日 一代要記・寿永三年正月二十日 神皇正統記・後鳥羽院 平家物語九「木曾の最後」 参考源平盛衰記三十五 「木曾首被・渡事」 一代要記・寿永三年正月頃 平家物語八「太宰府落」 「六箇度合戦」九「樋口の被・斬」 参考源平盛衰記三十二 「平家著・太宰府」 ^付 北野天神飛・梅事」三十三「大神宮勅使」 ^付 緒形三郎攻・平家事」 「平家太宰府落」 ^並 平氏字佐宮歌 ^付 清経入海事」 「平氏著・屋島事」三十六 「二谷城構事」 百練抄・寿永三年正月二十九日、二月八日 帝王編年記・寿永三年二月七日 一代要記・寿永三年二月七日 平家物語九「盛俊の最後」 「忠度の最後」 「重衡生捕」 参考源平盛衰記三十七 「二谷落城并重衡卿虜」 ^付 守長捨」 ^主 秀歌事」 「忠度通盛等最後事」三十八「平家君達最後」 ^並 首共掛」 「二谷	

元暦元			
改元	右京大夫の和歌 右京大夫と重衡の逸話 重衡斬られる	右京大夫の和歌 右京大夫と重衡の逸話 重衡斬られる	建礼門院右京大夫集二・四 建礼門院右京大夫集一九七 玉葉和歌集十一・恋三・一五四九 帝王編年記・寿永三年二月十三日 平家物語十二「重衡の被・斬」 平家物語十「熊野参詣」 「維盛の入水」 参考源平盛衰記三十九 「維盛出・屋島」 ^参 詣高野粉川寺」 ^并 謁・法然房事」 四十「維盛出家事」 「維盛入道熊野詣」 ^付 熊野大峰事」 「中将入道入水事」 建礼門院右京大夫集二・六 平家物語八「太宰府落」 参考源平盛衰記三十三 「平家太宰府落」 ^並 平氏字佐宮歌 ^付 清経入水事」 平家物語十「藤戸」 参考源平盛衰記四十一 「屋島八月十五夜」 ^付 範頼西海道下向事」 ○新古今和歌集八・哀傷・八五〇 ◎玉葉和歌集十七・雜四・二三一七、二三一八、二三四二、二三四三 百練抄・寿永三年四月十
	去年 清経の入水 平家の動向	去年 清経の入水 平家の動向	
	行盛と全性、忠快と行盛の贈答歌	行盛と全性、忠快と行盛の贈答歌	

文月 後鳥羽天皇即位	六日 帝王編年記・寿永三年四月十六日 一代要記・寿永三年四月十六日 公卿補任・寿永三年 百練抄・元暦元年七月二十八日 帝王編年記・元暦元年七月二十八日 一代要記・元暦元年七月二十八日 神皇正統記・後鳥羽院 平家物語十「藤戸」 参考源平盛衰記四十一 〔新帝御即位〕義経蒙使宣 〔伊勢瀧野軍事〕 公卿補任・寿永三年・藤原師家・藤原基通 百練抄・寿永三年正月二十二日 百練抄・元暦元年十一月十八日 帝王編年記・元暦元年十一月十八日 一代要記・元暦元年十一月十八日 平家物語十「大嘗会の沙汰」 参考源平盛衰記四十一 〔義経拝賀御禊供奉〕実平 自「西海」飛脚事「被レ行」大嘗会「頼朝条々奏聞事」	撰政の交替	大嘗会のこと

一の谷の戦いで討ち取られた平家の人々の首が獄門に掛けられる	百練抄・寿永三年二月十三日 帝王編年記・寿永三年二月十三日 一代要記・寿永三年二月十三日 平家物語十「頸渡」 参考源平盛衰記三十八 〔平家首掛獄門〕自維盛北方被レ見首事	頼朝・義経・範頼の昇進	二二八五 弥生の末 壇ノ浦の戦いと平家滅亡
義経平家の討手に上り給ふ事	百練抄・寿永三年三月二十七日 帝王編年記・征夷大將軍源頼朝の条 平家物語十「三日平氏」 〔藤戸〕 参考源平盛衰記四十一 〔頼朝叙正四位下〕自崇徳院還レ宮事	百練抄・元暦二年正月十日、三月二十四日 帝王編年記・元暦二年三月二十四日 一代要記・元暦二年三月二十四日 神皇正統記・安德天皇 平家物語十「壇の浦合戦」 〔先帝の御入水〕〔能登殿最後〕 参考源平盛衰記四十三 〔二位尼入海〕平家亡虜	

卯月 源氏軍の帰京	人々 ^付 京都注進之事 ◎帝王編年記・元暦二年四月二十五日 百練抄・元暦二年四月二十五日 一代要記・元暦二年四月二十五日	宗盛と清宗の死	百練抄・元暦二年四月二十六日、五月七日、六月二十一日 帝王編年記・元暦二年四月二十九日、五月七日、六月二十三日 百練抄・元暦二年四月二十五日、二十七日 平家物語十一「内侍所の都入」 参考源平盛衰記四十四「神鏡神璽都入 ^付 三種宝剣事」 ^付 大臣殿舎人 ^付 女院移吉田 ^付 頼朝叙二位事 ^付
御宝の渡御	生き残った平家の人々のその後	全真の筑紫配流と建礼門院との再会	◎玉葉和歌集十八・雑五・二四一五

文治三			
一一八七			
安徳天皇に御謚を追贈 天下太平	建礼門院の後半生 頼朝・義経の昇進	◎帝王編年記・元暦二年六月二十三日 建礼門院右京大夫集二四〇の詞書 平家物語灌頂卷「女院御出家」 ^付 小原 ^へ 入御 ^付 小原御幸 ^付 参考源平盛衰記四十八「女院吉田御住居同御出家事」 ^付 大臣父子自 ^付 鎌倉上洛 ^付 女院寂光院入御事 ^付 「法皇大原入御事」 ◎百練抄・元暦二年四月二十七日、七月十四日 帝王編年記・元暦二年四月二十七日 参考源平盛衰記四十四「大臣殿舎人 ^付 女院移吉田 ^付 頼朝叙二位事 ^付	謡曲「大原御幸」
増鏡一「おどろが下」 二十三日	一代要記・文治三年四月二十三日		